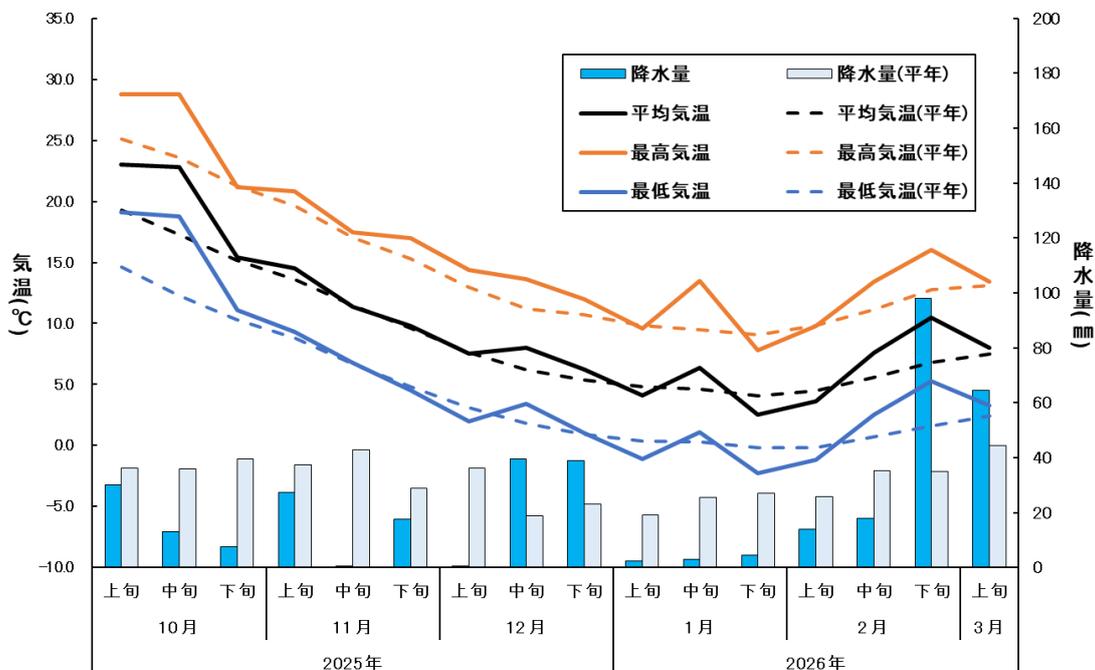


令和8年お茶づくり技術情報 (No.1)

2026年3月24日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) これまでの気象 (2025年10月～2026年3月、嬉野市)



- (1) 平均気温は10月中旬までは平年より高めに推移し、11月から12月にかけてはほぼ平年並みとなった。その後、2月中旬から下旬にかけては平年を上回り、3月上旬には再び平年並みとなった。
- (2) 降水量は、12月中下旬、2月下旬、3月上旬は平年より多かったが、その他の期間は平年を下回り、全体的に少雨傾向であった(全体積算値 380 mm:平年比 73%)。

2) 新芽生育



写真① 2025年3月11日の
さえみどりの越冬芽(秋整枝 11/8)

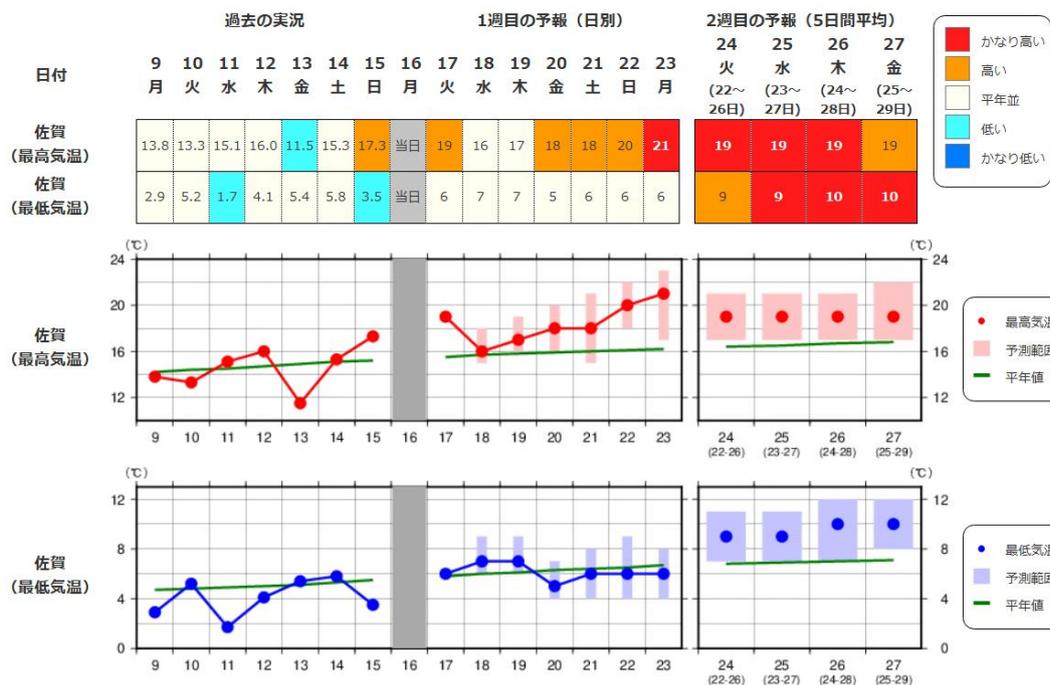


写真② 2026年3月16日の
さえみどりの越冬芽(秋整枝 11/6)

- (1) 茶業試験場内の「さえみどり」は、昨年(5日前)と同程度の生育であるため、やや生育が緩慢な傾向である(※達観による平均的な芽の場合)。しかしながら、今後は平年よりも気温が高くなるため、急激な芽の伸育に留意する。

3) 今後の気象の見通し

■ 2週間予報（気象庁、3月16日発表）

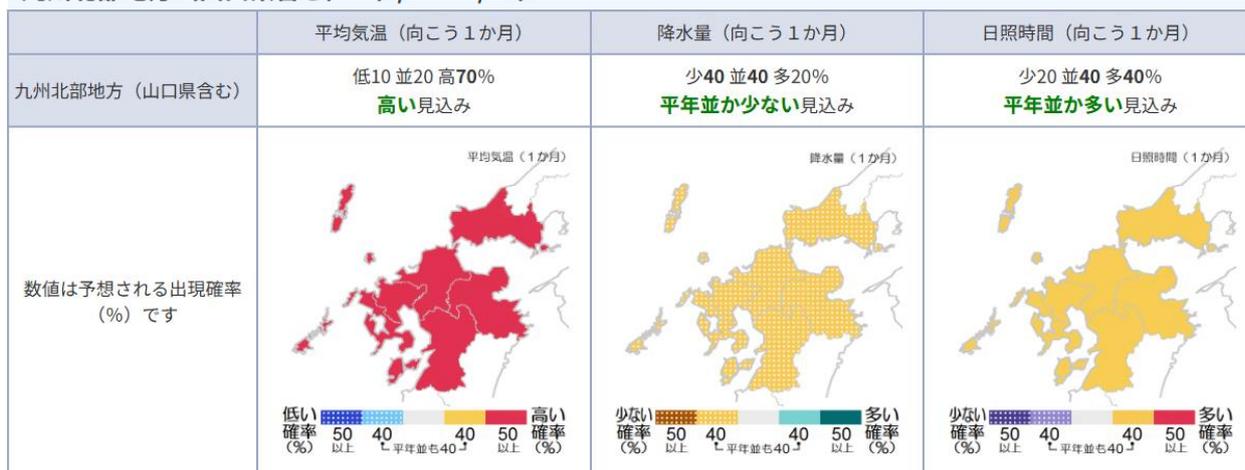


2週間予報 HP

■ 1か月予報（福岡管区气象台、2026年3月12日発表）

1か月予報 HP

向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方（山口県含む）（3/14~4/13）



(1) 期間の前半を中心に高気圧に覆われやすく、低気圧や前線の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並みか多い予測となっている。

(2) 向こう1か月の天候は、平年に比べ高温で晴れの日が多くなると予想されている。晴天・無風・乾燥・昼夜の気温差が大きい日は、霜に注意する。また、芽の生育が進むため、施肥が遅れないように気をつける。

2. 今後の管理

1) 土壌・肥料

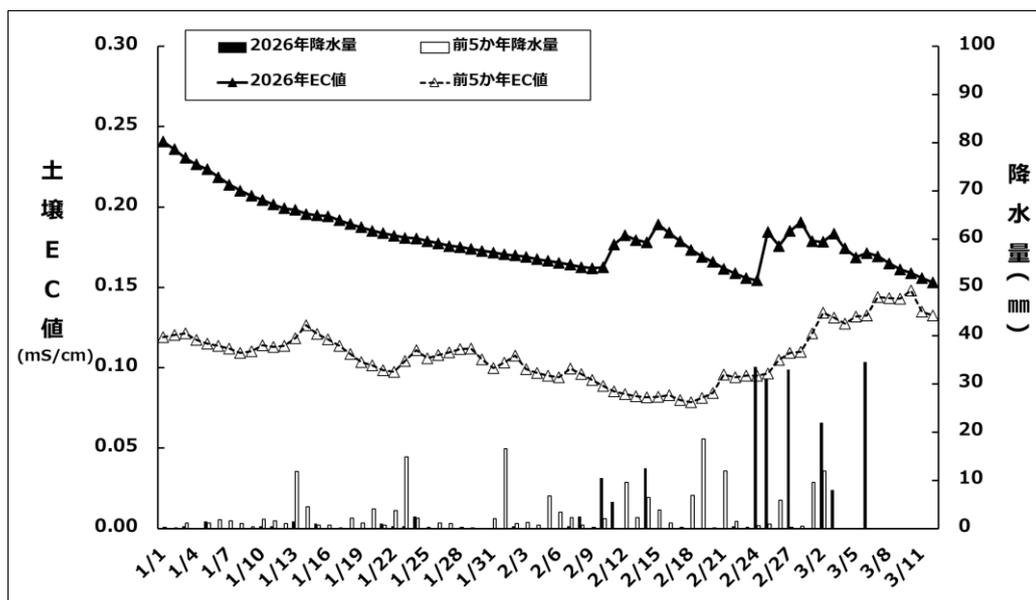


図 茶試作況調査園における土壌 EC 値と降水量の推移

注) 雨落ち部深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値をもとに換算した値を示す。

- (1) 土壌 EC 値は、前年の 10,11 月の降雨が少なく、12 月の降雨で上昇した後は、降雨も少なかったため、全 5 か年平均よりも高く推移していると考えられる。
- (2) 本年に入ってから、1 月から 2 月上旬の雨がほとんど降らない期間で徐々に低下し、2 月中下旬の降雨で一時的に上昇した後、再び低下傾向となっている。

2) 整枝 (化粧ならし)

- (1) 3月に、新芽が秋整枝面より上部に出る前に行う。
- (2) 新芽を傷つけないように、ハサミの高さは秋整枝面より深くしない。
作業が遅れ、秋整枝面より新芽が伸び上がった場合には、やや高めにハサミを入れ、新芽を傷つけないようにする。
- (3) 再萌芽した茶園の対応策
 - 再萌芽した芽が開葉している → 化粧ならしで除去する
 - 再萌芽した芽が開葉していない → 秋整枝面より 5 mm 程度上げて再萌芽した芽を切らない

3) 防霜対策

- (1) 防霜ファンは萌芽 2 週間前からの稼働を基本とし、早めに事前点検 (温度センサー、首振り状態) を行う。
- (2) 防霜ファンの設定温度は茶株面で 3℃ (茶株面より樹体は 2~3℃低い) を基本とし、過度に設定値を上げない (晩霜害の発生助長やランニングコスト高となる)。
- (3) 凍霜害の影響を受けた場合は、次項の対応策を参考に管理を行う。

○生育ステージ別凍霜害対応

生育ステージ	被害程度	対応策	
萌芽期～ 2葉開葉未満		被害の程度にかかわらず、そのままにしておく	
2葉開葉～ 4葉開葉	1)部分的で被害部と無被害部がはっきりしている場合	そのままにしておき、拾い摘み、または部分摘採を行う	
	2)部分的で被害部と無被害部がはっきりしない場合	①被害芽率が低い場合	そのままにしておく
		②被害芽率が高い場合	被害部を除く程度に軽く整枝する
	3)被害が全面的の場合	被害部を除く程度に軽く整枝する	
摘採期直前	1)被害が部分的の場合	拾い摘み、または部分摘採する	
	2)被害が全面的の場合	刈り捨てて二番茶の生育を待つ	